

# 小学4年生で「ペーパースコップ」を開発した 丸野遥香ちゃん —10年目を迎える「子ども会社 ハルカファミリー」代表の未来—



●社長椅子に座る遥香ちゃん（提供：丸野氏）。

1987年、「畜産王国」で有名な宮崎県都城市<sup>みやこのじょう</sup>で、1人の女の子が生まれた。丸野遥香ちゃんである。幼い頃からお母さんのバレエ教室でクラシック・バレエを習い、お父さんのデザイン事務所で絵を書いたり、工作をしたり、両親と多くの時間を一緒に過ごしていた。

そんな遥香ちゃんは、小学4年生のときに転機を迎える。それは、愛犬のパトリックを初めて散歩に連れて行ったときのことであった。散歩中、パトリックが道端で糞をしまい、何も持っていなかった遥香ちゃんは、大慌て。そして、悩んだ挙句、素手で糞をつかんで家まで持ち帰ったのであった。このときから、糞をとるために何か便利なものはないかと考え、牛乳パックでスコップを作ることを思いついた。遥香ちゃんは先生に勧められ、その「ペーパースコップ」を発明工夫展に出してみた。すると、町長賞を受けることになり、さらに「ペーパースコップ」を見た人から、商品化の話が舞い込んできた。遥香ちゃんはお父さんと商品作りを進めた。次の年、ペーパースコップを販売するため、「子ども会社 ハルカファミリー」を創り、遥香ちゃんは小学5年生で「社長」となった。

2008年現在、遥香ちゃんは様々な経験を重ねて大学2年生になった。「ペーパースコップ」もこの10年の間に、一般向けのエコ商品から、マナー啓発用品へと変化してきた。遥香ちゃんは自分の経験を振り返り、将来は、子どもたちが、自分たちの考えやアイデアを社会に発信し、もっと社会と関わりが持てるような場を創りたいと夢を描いていた。一方、子どもがそのような経験をすることにどんな可能性や問題があるのかについても考えていた。

---

本ケース教材は、高知県再チャレンジ学習支援協議会が推進する文部科学省「再チャレンジのための学習支援システムの構築」事業の一環として、慶應義塾大学環境情報学部専任講師の飯盛義徳の監修のもと、慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程1年の西田みづ恵と総合政策学部2年の丸野遥香が作成した。本ケースは、プロジェクト推進や経営に関する適切あるいは不適切な考え方を例示することを意図したものではない。なお作成にあたり、丸野勇氏から取材と資料提供に多大なご協力をいただいた。ここに感謝したい（2008年1月 ver1.02）。